日本遺族通信
令和7年8月15日
第896号

一般財団法人日本遺族会
〒102-0081 東京都千代田区九段南一丁目六番五号 九段会館テラス四階
電話　03－3261－5521
振替　00160-6-25389
編集発行人　盛川英治
毎月1回15日発行
定価　1部130円（税込）

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

# 両陛下 皇后陛下 天皇陛下 モンゴルを公式訪問
## 日本人死亡者慰霊碑に供花

天皇皇后両陛下は、7月6日から13日までの間、国際親善のためモンゴルを公式訪問された。8日、両陛下は、ウランバートル市郊外の「日本人死亡者慰霊碑」を訪れ、供花された。その後、日本遺族会代表として出迎えた水落敏栄会長と、モンゴルに抑留され父を亡くした鈴木富佐江さんに声をかけられ、戦後の抑留者の苦難に思いをはせられた。


天皇皇后両陛下よりお言葉を賜る水落会長と遺族の鈴木さん＝7月8日、ウランバートルで

7月8日、両陛下は、ウランバートル市郊外の抑留中死亡者の埋葬地であるダンバダルジャーの丘に建つ「日本人死亡者慰霊碑」に花を供え、雨が強く降る中、約1分間、黙礼された。直後に雨がさっとあがると、さしていた傘を閉じて、改めて約10秒間、深々と頭を下げられた。

その後、両陛下は出迎えた水落会長と遺族の鈴木さんに声をかけられた。

陛下は、父親が山形県の海軍航空隊への爆撃で戦死している水落会長に対して、「水落さんのお父さんは山形でね（亡くなられて）」と慰めの言葉をかけられた。水落会長は、陛下のお言葉にあふれる涙をぬぐいながら「戦後生まれの次世代の青年部とともに平和の語り部事業をしっかりとやっています」と応えた。

また、陛下から「お父さまがお亡くなりになって、ご苦労がおありでしたね」と声をかけられた鈴木さんは、懇談後の取材で「父さえいれば、という思いはある。戦争がどんなに無残か知っていただきたい」と話した。

今回現地に次男夫妻と孫を伴っており、「大事な歴史を若い世代につないでいって、伝えていきたい」と語った。

今上陛下のモンゴル訪問は皇太子時代より2回目。歴代の天皇、皇后両陛下が旧ソ連・モンゴルの抑留地で慰霊されるのは初めて。両陛下の訪問によりモンゴル抑留の歴史に光があてられた。

戦後、モンゴルには約1万4千人の日本人が抑留され、首都ウランバートルなどで強制労働に従事し、過酷な労働、飢え、伝染病等により約1700人が亡くなったとされている。


両陛下との懇談後、取材で思いを語る＝7月8日、ウランバートルで

## 日本外国特派員協会
### 本会語り部、昭和館を視察

7月31日、日本外国特派員協会（FCCJ）加盟記者、職員が遺族会の語り部、昭和館等を視察した。同月1日開かれた本会水落敏栄会長の記者会見がきっかけとなり、戦争の記憶を伝承する「語り部」と国立の史料館「昭和館」の視察となった。

昭和館の視察では、戦没者遺族の要望が契機となり、国で様々な検討が重ねられ開館した経緯や、展示資料の説明がなされた。一行は、タッチパネル式の日本国内の空襲被害地図、玉音放送などを熱心に視察した。

その後、九段会館テラス4階の本会会議室に移動。本部より遺族会結成の経緯、理念を説明。主な事業を紹介した上で、活動の根幹は結成以来、戦争の犠牲を忘れさせないことであり、戦争の悲惨さ、平和の尊さを伝承する「平和の語り部」と説明した。

その後、語り部講話を聴講。福居一夫ブロックアドバイザー（埼玉県遺族連合会副会長）より、東京大空襲の体験、硫黄島での遺骨収集の思い出が語られた。

記者からは、大空襲の中、幼子2人を守りながら逃げる中で見かけたひとりで泣いていた少女の存在を生涯心に留め、悔やんでいたとする福居氏の母の手記に対し印象的だとの声が上がった。

最後に2・26事件の戒厳司令が置かれた旧九段会館の役員室など、テラスの歴史的建造部分を視察し、幕を閉じた。


協会加盟記者に空襲や遺骨収集経験を語る福居ブロックアドバイザー＝7月31日、九段会館テラスで

## 第12回　特別弔慰金
## 請求手続きが始まっています

**支給対象者**

令和7年4月1日（基準日）において、「恩給法による公務扶助料」や「戦傷病者戦没者遺族等援護法による遺族年金」等を受ける方（戦没者等の妻や父母等）がいない場合に、次の先順位のご遺族お一人に支給。

**戦没者等の死亡当時のご遺族で**

1　令和7年4月1日までに戦傷病者戦没者遺族等援護法による弔慰金の受給権を取得した方
2　戦没者等の子
3　戦没者等の①父母②孫③祖父母④兄弟姉妹
4　上記1から3以外の戦没者等の三親等内の親族（甥、姪等）

※戦没者等の死亡当時まで引き続き1年以上の生計関係を有していた方に限ります。

請求手続きの簡素化のため「同意書」の提出が廃止されたので、同順位の方が複数いる場合は、話し合いのうえ、代表して請求する方を決めてください。

| 支給内容 | 請求期間 |
|---|---|
| 額面27万5千円<br>5年償還の記名国債 | 令和7年4月1日から<br>令和10年3月31日まで |

**請求窓口**

**お住まいの市区町村の援護担当課**

## 政治連盟
### 議席落込む

7月20日に投・開票が行われた第27回参議院通常選挙では、日本遺族政治連盟が推薦した自由民主党比例区候補者3人は、橋本聖子氏、有村治子氏が当選したが、佐藤正久氏は落選し、比例代表の獲得議席は過去最低の12議席まで落ち込んだ。

今回の選挙は125の議席をめぐって争われ、自民・公明両党は過半数の議席を確保できず衆議院に続き、参議院でも少数与党となった。

このため、遺族会の戦没者遺族処遇に関する要望事項が、8月末の財務省への概算要求に計上されることが不透明な状況となった。

## 支部長交代

静岡県、富山県、福井県、山口県、香川県で役員改選が行なわれ、新会長が就任した。

▼富山県遺族会
山本　甚克氏
（6月26日付）

▼福井県遺族連合会
酒井　秀和氏
（6月26日付）

▼山口県遺族連盟
岩村　誠氏
（6月26日付）

▼香川県遺族連合会
多田　一明氏
（6月26日付）

▼静岡県遺族会
増田　幹夫氏
（6月27日付）

## 声なき声

8月になると、天皇陛下が日本人が忘れてはいけない4つの日とされる内の3つを迎える。8月6日の広島原爆投下の日。8月9日の長崎原爆投下の日。8月15日の終戦記念日である▼今から80年前の8月6日、人類史上初めて、広島に原子爆弾が投下された。地上600メートルの上空で炸裂した火球は、中心温度は摂氏100万度を超え、爆心地周辺の地表面の温度は3000度から4000度にも達し、大きな被害をもたらした。また、長崎でも被害は同様であった。死者数は昭和20年12月までで広島で約14万人、長崎で7万3884人が亡くなった。（広島市、長崎市のホームページより）▼終戦80年を迎える8月15日、全国各地からご遺族の代表が日本武道館に参集され、政府主催の全国戦没者追悼式に臨まれる。国費参列者の中に少なくとも1名は18歳未満の遺族が参列する。さらに、18歳未満の遺族代表の献花者も出席する。先の大戦を知る遺族は減少する一方、戦後生まれの遺族が増えるのは致し方ない▼無辜の命が奪われた先の大戦。未だ、各地で争いが絶えないこの世の中ではあるが、この式典を機に、私たち戦没者遺族ができることは何か、未来を見据えて今一度、平和の伝承について一考願いたい。（M）

平和の語り部

# 第5回定期講話会を開催

## 対話型を主とする初の試み

戦争体験者の遺族と戦後生まれの青年部が共に記憶の伝承に取組む遺族会の平和の語り部事業の普及、拡大を図るための本部主催、第5回目の定期講話会は洋上慰霊の報告と次世代が体験者に記憶を聞き取る座談会を開催。対話型を主とする初の試みは、次世代の真摯な問いかけに体験者が答える遺族会の語り部の可能性を示すものとなった。

7月13日に開催された第5回定期講話会は、初めに洋上慰霊参加者2人が講話者として体験を報告した。

岡部博明さん（埼玉県：遺児）は、生まれて間もなく、母が他界。伯父夫婦のもとに一時的に引き取られた。その後、父が戦死したため、伯父、伯母を両親と思って育った生い立ちに触れ、愛情深く育ててくれた伯父、伯母への感謝と共に、両親に孝行できない歯がゆさを感じていた。平成27年に遺児友好東部ニューギニア地域への参加をきっかけに在住遺族会へ入会。父が生きて帰ってきたならば従事したであろう遺骨収集を自身の使命と考え複数回参加。今回の洋上慰霊における慰霊、語り部研修を通し、平和を語る責任を感じ、記憶の継承に寄与すると決意を語った。

深澤英樹さん（東京都：戦没者の孫）は定年を機に何かを始めたいと思った際に、父が生前祖父の慰霊に参加したがっていたことを思い出し、政府巡拝に参加。現地に赴き、異郷の地で戦没した祖父の無念を痛感し、祖父の足取りを調べた。35年間軍艦に乗船し、運命を共にした沈没地点へ立ちたいと参加。慰霊や語り部研修を通し、体験者の思いを次世代へ継承する責任を感じたと語った。

次に「自分史、家族史作成会」として、戦争体験者、次世代を7グループに分け、全員参加の車座の座談会を行った。

自分史・家族史シート



車座で体験者の記憶を聞き取る次世代＝7月13日、九段会館テラスで

をもとに次世代が進行し、体験者に質問しながら記憶を聞き取る座談会は、初の取組みとなった。進行、役割がよく分からないと言った意見もあったが、体験者の貴重な話が聞けて勉強になった（大学生）、次世代の方の積極的な姿勢に感動したなど概ね好評を得た。

次回8月3日（終了）、次々回9月14日の予定。たくさんの参加をお待ちしている。

## 平和の語り部事業

### 語り部育成各地の取組み

学校での語り部の推進に向けた各地の取組みを紹介する。

本部は各地の実情に合わせ、多様な取組みを紹介し、大切な人の思い出を伝える語り部となってほしいと依頼した。

○6月29日（奈良県）

青年部総会を開催。挨拶に立った宮本賢二青年部長は、護国神社での清掃奉仕や、青年部入会の呼びかけなど、地道な取組みを重ねようと呼び掛けた。

松尾敏一会長は語り部事業への注力を誓い、現在依頼のある学校での確実な講話に向けた準備を伝え、青年部と共に歩もうと呼びかけた。

○7月9日（北海道）

平和の語り部研修会を開催。活動中の2人の講話を聴講。永地弘子石狩地区女性部長は戦後の母との苦難の思い出を披露し、戦争は家族の形も変えるむごいものだと涙ながらに伝えた。

佐伯昇恵庭市会長は、おじの生涯等を伝え、出征時の苦しみは、現在の若者にも通じるものがあり、過酷な環境も志が助けてくれると大学教授として学生たちに語り続けてきたと明かした。「平和の兆し」である語り部は続けることが重要で、抑留生活を伝えていた先輩から引き続いた絵画等の資料を次世代へ継承したいと語った。

○7月24日（愛知県）

女性部長会議を開催。挨拶に立った片岡美和子女性部長は、昭和19年生まれで空襲体験は覚えていないが、戦後の母の労苦は忘れられないとして、私たちから語ろうと呼びかけた。昨年実施した自分史アンケートを振返り語り部の育成を研修し、孫が作成してくれた自分史から語り部になった。母の思い出を語りたい、戦地からのはがきが自宅にある等思いの意見があがった。

機運を盛り上げる各地の語り部大会の様子は次号で紹介する。



今の学生に自分事として考えてもらうポイントを語る佐伯昇氏＝7月9日、北海道で



自分史アンケートから語り部講話を研修する女性部＝7月24日、愛知県で

## 遺骨収集事業を実施

### 硫黄島から23柱を奉還

日本戦没者遺骨収集推進協会（推進協会）主催の硫黄島戦没者遺骨収集派遣（第1次）を実施し、本会からは6人（子1人、孫2人、甥3人）が参加協力した。

7月17日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑で遺骨引渡式が挙行され、出迎えた遺族代表、福岡資麿厚生労働大臣はじめ国会議員、関係団体代表等の多くの参列者が見守る中、令和7年度最初の硫黄島派遣で収容された23柱の遺骨が、派遣団から厚生労働省へ引き渡された。

硫黄島での収容遺骨概数は、1万770柱となった。

派遣団員は、本会からの派遣者6人を含め、硫黄島協会、小笠原村在住硫黄島旧島民の会、JYMA日本青年遺骨収集団等の団体が参加し、推進協会を併せ総勢35人で構成され、7月2日から7月17日の16日間実施した。

派遣団は選定された場所を基に3班に分派して遺骨収容作業を行い、硫黄島中央部（自衛隊滑走路北側）周辺を中心に地表6カ所で7柱、天山付近（硫黄島警備隊陣地付近）地表4カ所で8柱、南海岸（南砲台群崖下）3カ所では4柱を収容した。

派遣後半は台風が発生し悪天で作業中止が多かったが団員は手掘りで地表の土砂を丁寧に排土して遺骨の発見に努めた結果、合計19柱を収容した。

収容した遺骨19柱とすでに収容し安置されていた4柱（中央部2柱、天山付近2柱）を併せて奉持し7月16日、派遣団はすべての任務を終えて帰還した。

本会は引き続き推進協会への派遣協力を積極的に推進していく。



中央部滑走路北側周辺の地表を中心に土砂を丁寧に排土し遺骨を収容する団員＝7月7日、硫黄島で

## DNA鑑定申請について

### 戦没者遺骨を遺族のもとへ

厚生労働省では、戦没者遺骨の身元特定のためのDNA鑑定を実施している。

DNA鑑定申請の対象地域は、次の通り。

硫黄島、インド、インドネシア（西部ニューギニア含む）、沖縄、樺太、旧ソ連、モンゴル、タイ、中部太平洋地域（ウエーク島、ギルバート諸島、トラック諸島、パラオ諸島、マーシャル諸島、マリアナ諸島、メレヨン島）、東部ニューギニア、ノモンハン、ビスマーク・ソロモン諸島、フィリピン、ミャンマー

※DNA鑑定に掛かる費用は国の全額負担となる。

申請受付に関する問い合わせは、厚生労働省☎03－3595－2219まで。



好評募集
友好親善事業
慰霊友加
参

# 令和7年度で事業終了
## 5年ぶりミャンマー決定

日本遺族会が厚生労働省から補助を受け実施する「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」では、令和7年度の参加者を募集する。最終年となる本年は、フィリピン地域と本事業を契機とし、本会の社会奉仕活動の大きな結実となった小学校寄贈の地であるミャンマー地域の実施に決定した。一人でも多くの遺児に青年部世代とともに参加願いたい。

「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」では、令和7年度の参加者を募集する。

当初フィリピン地域2回を予定していたが、かねてから要望が多く、かつ旧戦域での友好親善を具現化したミャンマー地域を最終実施地域と決めた。ミャンマーには本事業で訪れた小学校の状況を憂いた遺児たちの思いをきっかけに全国から浄財を募り、3校の小学校を寄贈した。

これまで関係省庁と適宜現地の治安状況等について情報を共有しながら、ミャンマー国内情勢に鑑み政情が比較的安定しているヤンゴン、ペグー地区に訪問地を絞り実施予定とした。現在は、軍事政府が非常事態宣言を解除しているが、政情不安等の理由で中止となる可能性があるので、予めお含み願いたい。

なお、戦争の悲惨さ、平和の尊さを語り継ぐことを目的に、青年部育成の一環として、付添者で戦没者の孫、ひ孫、甥、姪は国より3分の1の補助※が受けられるため、是非この機会に一人でも多くの遺児に青年部と共に参加願いたい。

募集要項は次の通り。

▼**時期及び地域**　実施計画概要参照。

▼**参加費**　10万円。東京等に集合し、結団式及び渡航に係る説明会を行う。なお、集合場所まで及び解散場所からの交通機関は自身の手配となる。また、移動に係る国内交通費及び帰国時の宿泊代、渡航手続き手数料等費用は個人負担となる。

※付添者の補助は、実際に掛かる旅行費用の3分の1が対象となる。

▼**参加資格**　戦没者の遺児。（周辺公海上を含む実施地域で父等を亡くした方に限る）

▼**申込方法**　在住の各都道府県遺族会事務局へ。参加者の資格審査には、申込書の記載内容を確認するため、事前に申込書を取り寄せ、記入項目に不明な点（戦没者の部隊等）は各遺族会に相談し、記入した上で提出願う。

なお、申込多数の場合は選考となる。

実施地域や実施時期等は、相手国や交通機関等の事情で変更、延期、中止となる場合がある。また、参加者の高齢化に考慮し看護師が同行する。

### 令和７年度・戦没者遺児による慰霊友好親善事業・実施計画概要

| | 実施地域 | 実施時期 / 主な訪問予定地 | 募集人員 | 申込締切 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | フィリピン（特定地域） | 令和7年12月10日（水）～12月17日（水）　7泊8日 | 120人 | 令和7年10月10日 |
| | | ・A班＝マニラ及び東方山地<br>・B班＝クラーク、マニラ南方（リバ、ルセナ）<br>・C班＝ルソン島北部（バギオ、クラーク）<br>・D班＝ルソン島北部（バレテ峠、ソラノ、キャンガン、オリオン峠）<br>・E班＝ネグロス島（バコロド）、ミンダナオ島（ダバオ）<br>・F班＝セブ島、レイテ島（タクロバン、ブラウエン、リモン峠、ビリアバ、カンギポット山、オルモック） | | |
| 2 | ミャンマー（特定地域） | 令和8年3月7日（土）～3月15日（日） | | |
| | | 前班 令和8年3月7日（土）～3月13日（金）　6泊7日<br>後班 令和8年3月9日（月）～3月15日（日）　6泊7日 | 30人<br>30人 | 令和7年12月5日 |
| | | ・ヤンゴン（ラングーン）、ペグー | | |

※ミャンマー地域は、現地の情報を適宜収集し、実施に向け準備いたします。そのため、取り止めも含む日程の変更の可能性があることご了承願います。

## 終戦80周年・慰霊友好親善35周年記念事業
## 洋上慰霊　船内だより

**4日目（6月4日）曇**

船は日本領海を抜け、台湾海峡を航行。高波により船酔い者が続出した。

午前10時、語り部研修第3回は副団長江田肇氏（本会常務理事）の講演。追悼文を元にした10分の講話を披露。途中11時に日本郵船「阿波丸」沈没地点で黙祷。米政府により南方の連合国捕虜・抑留者に救血品等を輸送した同船が帰航途上の台湾海峡で米潜水艦に撃沈された悲劇を学んだ。

その後、16グループに分かれ自分史・家族史座談会。218人の参加者は互いの話に耳を傾け、質問を重ね、ホールは熱気に包まれた。

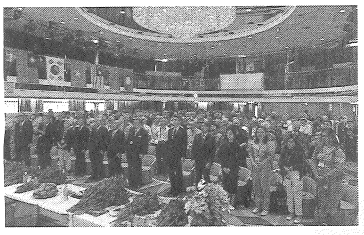
午後3時、台湾南部西方沖を航行中、4Fホールにて第3回台湾海峡海域洋上慰霊祭を挙行。（関係遺族10人）

慰霊祭後は6日の懇談会で比島の児童に贈る学用品への寄書き、千羽鶴作成が有志で行われた。作成は深夜まで各部屋でも続けられた。

**5日目（6月5日）晴**

船は台湾・バシー海峡を航行中、午前10時30分、7Fスポーツデッキにて第4回台湾・バシー海峡海域洋上慰霊祭を挙行。（関係遺族29人）

午後3時、船は比・ルソン島北部西方沖を航行中、7Fデッキにて第5回ルソン島西方沖海域洋上慰霊祭を挙行。（関係遺族44人）風雨により室内の慰霊祭が続いた中で、同日は5日目にして初の甲板での慰霊祭。大海原へ語り掛ける追悼の辞に団員は一様に涙した。



全戦没者追悼式で御霊の冥福を祈る在比日本国大使、比政府関係者
＝6月6日、ドルフィンホールで



懇談会で水落団長よりフィリピン赤十字社へ車椅子を寄贈＝6月6日、ドルフィンホールで

**6日目（6月6日）曇**

午前8時、比島・マニラ港に入港。午前10時30分、4Fホールにて在比島日本国大使館遠藤和也特命全権大使、花田貴裕公使他、比政府観光省、赤十字社、孤児院施設、慰霊巡拝現地ガイド等の来賓参列のもと全戦没者追悼式を挙行。

午後0時20分、2F瑞穂にて懇談会を開催。本会より比赤十字社に車椅子5台を寄贈。団員より孤児院児童に対し、持参した学用品等と共に心を込めた寄せ書き、千羽鶴が手渡され、歌のプレゼントとして全員で「上を向いて歩こう」「ふるさと」を合唱。児童には笑顔があふれ、懇談会は盛会裡に終了。午後7時頃、エンジントラブルにより約1時間遅れで出港。

**7日目（6月7日）曇**

午前7時、戦艦武蔵の沈没地点において黙祷。

午前10時30分、ルソン島南部西方沖を航行中、4Fホールにて第6回シブヤン海海域洋上慰霊祭を挙行。（関係遺族34人）

午後3時、ルソン島とサマール・レイテ島間の海峡を抜け太平洋を航行中、7Fデッキにて第7回レイテ島東方沖海域洋上慰霊祭を挙行。（関係遺族52人）

船は一路、日本を目指す。（次号へ続く）

## 国内民間建立慰霊碑等調査
### 本会が委託を受け実施

令和7年度の新規事業として国内民間建立慰霊碑等調査事業が、7月1日付で、厚生労働省から本会へ委託された。

本事業は、全国に約1万6000基ある民間建立慰霊碑を、戦争の風化を防ぎ、平和の尊さを伝えるシンボルとして、国や自治体、遺族会が協力し永続的に管理できるよう、実態調査することを目的としている。

平成30年度に厚生労働省が実施した調査では、8割以上の慰霊碑の状態は良好という結果であったが、高齢化著しい遺族会だけでは維持管理が困難な慰霊碑も増えており、郷土を守った戦没者の霊を祀る貴重な文化的建造物である慰霊碑が未来永劫慰霊追悼できるよう、整理統合等を検討することが喫緊の課題となっている。

そのためには、慰霊碑の状態、管理状況に加え、慰霊碑での慰霊祭の実施や平和学習への活用状況、今後に関する建立者、地権者、管理者等の意向を調査することが必要である。

本会は、戦没者の慰霊と次世代への記憶の継承を続けるため、支部遺族会、市区町村遺族会等の協力を得て、慰霊碑に関する遺族会が抱えている問題等も含めて実態を調査する。

また本会は、実態調査の結果を踏まえ、将来に向けた慰霊碑の管理のあり方を自治体等と検討する取り組みや慰霊碑の永続的な管理に対する国の支援につなげていく。

## 日本遺族会への賛助金のお礼

本会の活動に賛同し、賛助金を寄せていただいた左記の方々に対し、心よりお礼申しあげます。

**賛同者名**（敬称略・カタカナ名は銀行振込、漢字名は現金書留等）

岡野淑子、古賀清治、若林甚一、安原恭子、柳井捷子、瀬尾好康、水元義則、鐘ヶ江那智雄、永福佐代子、増田幹男、甘竹勝郎、山本九洲男、松垣治子、西茂俊明、片山李男、小川勉、小森園和美、山本桂子、桐原勝代、佐谷紀子、梅澤弘一、中村喜美江、藤沢靖、廣木正勝、阪中進、平塚裕輝、轟木保子、鈴木美智子、柳原厚子、石橋嘉子、坂本功、久保廣子、高倉正達、梅本潤子、貝嶋武典、柳澤豊子、柴田美幸、鈴木正行、西保子、羽根岡美智子、井上咲子、秀平良子、秀平八代子、山口力、秋山新司、野津紘子、赤堀聰、溝口典子、森勝義、宮地邦彦、相良秀熙、江元幾子、中村公子、飛田秀次、宮武勝、稲田謙男、今堀治夫、川添泰子、城戸利子、狩野平左衛門岳也、ヨコヤマノリヨシ、オクダフミコ、ヨシザワトシエ、タカモリリュウト（以上、7月1日から7月末日まで）

皆様からいただいた賛助金は、本会が実施している英霊顕彰、戦没者遺族の処遇改善、戦没者遺骨収集事業等のさまざまな遺族会活動に利用させていただいています。

## 日本遺族会への賛助金のお願い

日本遺族会では、戦没者の英霊顕彰や遺族援護、慰霊友好親善事業、遺骨収集帰還等各種事業の活動のために賛助金を募っております。

本会の活動の趣旨にご理解を賜り何卒ご賛同いただきますようお願い申しあげます。

●郵便振替
00130-2-694926

●みずほ銀行　九段支店
普通預金　0980930

※口座名は、一般財団法人日本遺族会（イッパンザイダンホウジンニホンイゾクカイ）

戦後80年

# 記憶の継承シンポジウム
## 厚労省・昭和館主催で開催

終戦から80年の節目となる本年は戦争の記憶の継承が社会的課題として各方面で取り上げられている。九段会館テラスで、厚生労働省と昭和館がそれぞれ主催するシンポジウムが開催された。記憶の継承に取組む遺族会、資料館、教育関係者、体験者など多様な視点によるシンポジウムを紹介する。

8月3日、九段会館テラスにて、2つのシンポジウムが開催された。午前10時より厚生労働省主催「戦後80年記憶の継承シンポジウム」。世代を超えた先の大戦の記憶の効果的な継承の在り方を議論、実践する機運を醸成することを目的とした。シンポジストは、本会平和の語り部ブロックアドバイザー大東潤氏（兵庫県遺族会青年部副部長）をはじめ、平和祈念展示資料館、人吉海軍航空基地資料館、広島市教育委員会、東京女子大学名誉教授、若手俳優など記憶の継承を担う戦後世代が揃った。

戦後世代が体験者の記憶を伝える手法、技術、展示方法に加え、自身がどのような歴史的立場に立つか意識し、世界平和を築くための国際協調、相互理解の促進が語られた。何より若年層に関心をもってもらい、更に自分事として捉えてもらうための体験の重要性が示された。

午後1時からは昭和館主催シンポジウム「『記憶』を伝えるということ」が開催された。パネリストには作家の保坂正康氏、大和ミュージアム館長戸高一成氏、NHKエグゼクティブプロデューサー右田千代氏を、モデレーターには池上彰氏を迎え、講演、ディスカッションが行われた。多くの戦争体験者に取材した経験や遺骨収集事業の視点から記憶の継承が語られた。両シンポジウムとも多くの聴講者が集い、戦争と平和について考える機会となった。



記憶の継承シンポジウムで遺族会の語り部を語る大東ブロックアドバイザー＝8月3日、九段会館テラスで

## 次世代とともに上京研修会
### 語り部育成の取組み

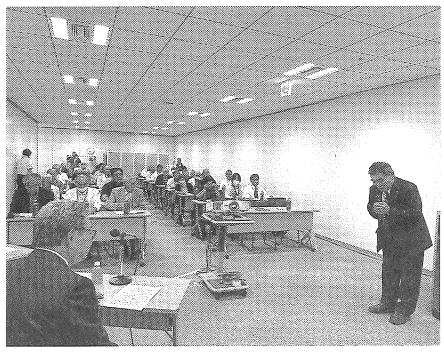
終戦80年の節目に各地域で次世代との上京研修会が実施されている。その様子を紹介する。

7月15日、宮崎県遺族連合会女性部は上京研修会を実施。当日、宮崎空港航空会社職員による制限区域への誤侵入により大幅にダイヤが乱れる事態となったが、全員揃って九段会館テラス日本遺族会研修室において、語り部研修に参加。本部職員より、全国から多くの語り部の依頼が寄せられている現状が説明された。その上で、ニーズに確実に応えるため、自分史・家族史作成シートを用いた座談会を活用し、多くの語り部を育成する研修が実例を踏まえ提案された。

語り部先進県の中心的語り部である川越禎子女性部長は、女性部から今こそ戦中戦後の体験を伝え、平和な社会を守るために次世代へ記憶を継承しようと呼びかけた。

7月17日、岡山県遺族連盟は上京研修会を実施。水落敏栄本会会長による講話「日本遺族会の歴史」を聴講した。本会の創設から、処遇改善運動、平和の語り部事業、組織継承など多岐にわたる内容が語られた。また、先の天皇皇后両陛下のモンゴル出迎えのエピソードを紹介し、（1面別掲）歴代の天皇陛下の御心を継ぐ今上陛下の「記憶の継承」への思いに応えようと語り掛けた。三宅禎浩理事長は、次世代と共に語り部事業を推進しようと呼びかけた。

宮崎、岡山両支部は、靖国神社のみたまつりにあわせた上京研修を実施。この他、靖国神社、千鳥ヶ淵戦没者墓苑を次世代と共に参拝し、語り部の育成を企図した研修を三重県伊賀市遺族会が実施した。伊賀市では昨年12月の大会以降、語り部の取組みを強化している。


上京研修会を行う岡山県遺族連盟一行＝7月17日、九段会館テラスで

## 地方だより

各支部遺族会で施された大会等は次の通り。

▼北海道　6月4日　第56回全道戦没者遺族大会（200人）
▼秋田県　6月4日　令和7年度一般財団法人秋田県遺族連合会第十三回評議員会（47人）
▼広島県　6月5日　令和7年度沖縄「ひろしまの塔」戦没者追悼式（58人）
▼山口県　6月15日　令和7年度山口県戦没者遺族大会（200人）
▼岩手県　6月17日　令和7年度岩手県遺族連合会研修会（130人）
▼奈良県　6月22日　令和7年度青年部総会（24人）
▼三重県　6月28日　終戦80周年・一般財団法人三重県遺族会結成80周年記念式典（160人）
▼埼玉県　7月3日　終戦80年記念式典（447人）
▼北海道　7月9日　平和の語り部研修会（48人）
▼徳島県　7月12日　第100回語り部事業（110人）
▼宮崎県　7月15日　宮崎県遺族連合会女性部上京研修会（26人）
▼岡山県　7月17日　岡山県戦没者遺族慰霊研修事業（44人）
▼福井県　7月23日　令和7年度「平和の語り部大会」（90人）

### 本会事業参加者の皆様へ

本会の事業に参加するに当たり、得た個人情報は「個人情報保護法」の定めに則り、厳重に扱います。日本遺族会の個人情報保護方針につきましてはホームページを参照されるか、本会にお問い合わせください。

## 九段短歌

作品をお寄せください。

選者　村田　信昌

父の歌刻みし墓碑に影をおき八十年目の木もれび揺る
　青森県　田中　恭子
父の遺骨は待ちいし母に寄り添いていくさは遠き昔となりぬ
　栃木県　西村三千代
慰霊祭に「九段短歌」の友に会ひ洋上に交はす熱きあつき握手
　千葉県　石橋　嘉子
語り部を育成すると叫べども十人針は何ですかと問う
　兵庫県　池田喜代子
疏開島兵はいずこや求めつつ夫だ戦ひ御霊夢みゆ
　香川県　植木　茂光
盆の経たがえず来たや赤トンボ八人程のうからをつれて
　長崎県　富永八重子

◇

日本でのお盆（盂蘭盆会）の歴史は古く、『日本書紀』に書かれている六〇六年七月十五日の施餓が初出とされています。鎌倉時代には武家社会のなかでも先祖や戦死者を悼むために営まれてきた仏教行事でしたが、江戸時代以降は庶民の間にも広まりました。お盆は亡くなられた方やご先祖様が隠世から現世に戻ってくる期間とされ、故人が生前を過ごした場所、主に自宅でお迎えを致します。お盆飾りとして胡瓜の馬と茄子の牛が一般的ではありますが、「盆の経たがえず来たや赤トンボ八人程のうから（親族）をつれて」とのお歌からは、ご先祖様は赤トンボがお連れになるという風習のようですね。いずれにしても日本人の大切な風習の一つであるお盆、ご英霊をはじめご先祖様をしめやかにお迎え致しましょう。

（選者）

## 皆々様元気で

海軍上等主計兵　星野　清一

昭和十九年七月八日
マリアナ諸島サイパン島にて戦死
埼玉県大宮市大谷別所出身　三十三歳

拝啓　過日五月五日に御手紙有難く拝見致しました。皆々様には別に御変りなく元気にて御暮しの事御喜申上げます。（中略）手紙拝見すると大分子供等も大きくなった様子。皆お前の日頃の教育の御蔭です。戦地で働いて居る私は子供の様子の便りが一番喜く思ひます。自然的に元気になって、私に力を付けて呉れて厚く御礼申し上げます。（中略）南の空でお前達の御健康を祈って居る。何如なる事が有りても親子三人で元気で暮してくれ。私も元気で大東亜戦争勝ち抜くまで働くぞ。御安心下さい。お前は俺が家を出る時に云った言葉を忘れてはいけない。人間は上を見ればかぎりがない下を見て咲く百合の花。その気持ちで働く事が一番大切です。（中略）又後日御便り差上ます。皆々様元気で。

星野清一

星野ヨシノ様
弘子　様
健一　様

【令和七年八月靖国神社社頭掲示】
愛しきものへ